

SSC
 埼玉県障害者社会参加 推進
 センターだより

令和6年12月30日 143号

編集
 埼玉県障害者社会参加推進センター
 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
 県障害者交流センター内
 TEL 048-825-0707
 FAX 048-825-3070
 メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp
 HPアドレス http://saitama-shokyo.org/info/
 発行 NPO法人埼玉障害者センター
 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
 頒価 一部100円(会費に含まれます)
 発行日 10日・20日・30日

10月6日(日)に「第45回埼玉障害者まつり」が埼玉県障害者交流センターで開催されました。台風が迫るといいう中で、前日は大雨でした。当日の早朝も小雨の中、家を出ました。が、なんと交流センターに着いたときには、雨はやんでいました。そこからは、一日を通して曇り空ではありましたが、雨は降ることなく、時折晴れ間も見え、とても過ごしやすい気候でした。天候にも恵まれ、延べ3100人の方にお越しいただきました。

今年の2月から事務局会議、実行委員会とを隔月で行いながら、10月の開催に向けて、話し合いを重ねてきました。シンポジウム、企画、模擬店と話し合いを進めていく中で、具体化していくことができ、参加されてきた皆さんの声が形になっていきました。事務局会議のメンバーには、これまでまつりを支えてきていただいたベテランの方から中堅、若手と幅広く様々な方に担っていただくことができました。事務局会議での話し合いから実行委員会へとつながっていく中で、より多くの方にまつりの裾野が広がっていったように感じています。ベテランの



第45回
 第45回埼玉障害者まつり実行委員会
 事務局長 若山 健太
 わかやま けんた

埼玉障害者まつりを終えて



方からは、「まつりのテーマにこんなたくさんの意見が出たのは久しぶりだった」というお話もありました。今年のテーマ「つながることが力になる 共に生きる平和な社会」は、皆さんの思いが詰まっています。今回は、チラシの配布やHP、SNSの活用と事務局員で宣伝活動も担っていくことができました。また複数で、さいたま市内の小、中、高校とチラシの配布のお願いにも回りました。

シンポジウム「障害のある人の暮らしの場を考える」は、オンラインを含めて100名の参加がありました。担当者間での話し合いをもちながら、シンポジストとして参加いただいたNHKの周さんとの事前の打ち合わせなども経て、当日を迎えることができました。ちょうど10年前に同テーマでシンポジウムを開催したこともあり、埼玉でのこれまでの取り組みを踏まえ、シンポジストの方々の発言を通して、改めて今後の展望について語り合うことができました。



企画では、中央ステージ、屋内ステージの出演の呼びかけに始まり、各ブースでの企画内容についても話し合いました。今年も多くは多くの団体に参加していた（初参加の団体もありました）、太鼓、バンド、ダンス、プロレスとどちらのステージもすごい熱気を感じました。プロレスラーの方は、「また来年！」とリングから呼びかけていました。今年には「おしゃれ体験コーナー」など事務局員の発案による企画も行うことができました。定期的に話し合いの中で、アイデアをたくさん出し合いながら検討することができたことが大きかったです。相談コーナーは、年金、精神障害の方の支援と合わせて、今年も、視覚障害者の同行支援のコーナーも設けることができました。



体育館でのスポーツツレク、子ども広場と、たくさんの子どもたちで賑わい、活気がありました。また、スタンプリリーの効果もあり、若い親御さんたちが2階エレベーターフロアで行われていた「戦争展」に立ち寄り、配布したパンフレットや展示物に関心をもっていただく機会もつくることができました。相変わらずゆるキャラの人気もすごかったです。

先日、事務局会議で障害者まつりのまとめを行いました。話し合いを通して、「みんなでつくってきた」今年の障害者まつりを高く評価していただきました。今回のまとめを踏まえて来年を考えていきたいと思えます。

今回の埼玉障害者まつりの成功は、皆様のご支援のお陰に他なりません。これまでのご協力に感謝申し上げます。みんなの力が合わさった素晴らしい「埼玉障害者まつり」でした。ありがとうございます。そして、来年もよろしくお願いいたします。



地区研修会

川越医療講習会報告

日本オストミー協会埼玉県支部

葛西 かつさい

誠 まこと

9月14日(土)、川越市ウエスタ川越にて、日本オストミー協会埼玉県支部と埼玉県障害者協会との共催による医療講習会を開催いたしました。

第一部は、岡田純子先生(流山中央病院皮膚・排泄ケア特定認定看護師)による「スキンケアとストーマケア」、続いて、第二部は十束英志先生(健身会大袋病院)の「生活習慣病の予防と対策」と2つのテーマです。会場には、48名の会員、医療関係者が参加され、活発な質疑応答もあり無事開催することができました。賛助会員の装具業者も6社の方が参加いただき製品の展示説明会も行われました。

最初に、所用で欠席された共催者である埼玉県障害者協会代表理事田中一様からのメッセージを披露しました。

「埼玉県委託事業啓発交流事業、地区研修会医療講習会が川越で盛大に開催できることを心よりお慶び申し上げます。本研修会は、オストメイトの社会復帰や生活の質の向上を目指して医療に関する講演等を行なうものとお聞きしており、本日の講習会が実り多いものであることを心よりご期待申し上げます。貴団体の日頃から当協議会に対するご支援・ご協力に深く感謝申し上げますとともに、研修会参加者、各位のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。」

第一部の講演は「スキンケアとストーマケア」についてです。

オストマーは、ストーマ外来などで直接日常的に認定看護師と接触しています。WOCナーズとも呼ばれ、日本看護協会が認定した教育機関で指定カリキュラムを受講し認定審査に合格した人達です。

多くのストーマトラブルはスキントラブル(皮膚の問題)を抱える場合が多く、

- ★皮膚のしくみと働き
- ★スキンケア
- ★ストーマの周りの皮膚に起こりやすいトラブルの原因

について具体例を交えて紹介していただきました。

第二部の講演は「生活習慣病の予防と対策」についてです。

このテーマは、日本人に多い生活習慣病、糖尿病、高血圧、高脂血症に対する状況です。生活習慣病療養管理の良いところは、生活習慣病療養計画書が発行されていることで、生活習慣病治療の実際を、糖尿病、高血圧、高脂血症を例にして丁寧に説明していただきました。



講演会の様子



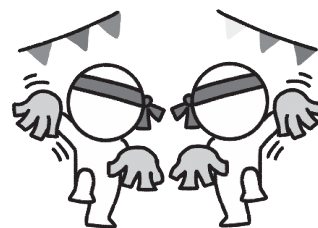


2025年、第25回夏季デフリンピック競技大会が東京で開催されます。
 特集第3回は、デフリンピックへの関わり方にまつわる記事を紹介させていただきます。
 色々な形で関わり方がある中で、皆様それぞれのデフリンピックへの参加につながり、理解とサポートが増えていけば幸いです。



どうやって応援できるの？

デフリンピックの会場や HP のライブ放送で応援できます。



①デフリンピック応援ツアーに参加して会場で応援！

旅行会社が企画する応援ツアーに参加して、直接会場で応援してみませんか。

②会場まで行けない…そんなときは！

- ・大会公式 HP (英語) / 大会全体の情報をチェック。サムスン大会ではライブ放送が行われました。
 - ・日本選手団特設サイト / 日本選手の試合スケジュールや結果を載せています。
 - ・デフスポーツ団体 HP / 各競技団体の HP ではその競技の詳しい報告が載っています。
- 上記へはこちらのリンク集ページへアクセス！ <https://www.jfd.or.jp/sc/deaflympics>



どのような支援があるの？

まずはデフリンピック知名度アップにご協力ください！



デフリンピックはパラリンピックより認知度ははるかに低く、スポンサーが少ないため、経済的負担が大きかったり、遠征などで職場での休暇が取りにくいなどといった課題があります。

①デフリンピックグッズを買おう！使おう！

グッズ売り上げによる収益は、日本代表団派遣のために使われます。また、たくさんの方がグッズを身につけると、デフリンピックのことを知る人が増えて、大会が盛り上がります。

②デフリンピックをフェイスブックやX (旧ツイッター) 等の SNS で発信しよう！

グッズの写真や選手のこと、また「デフリンピックって知っている？」など発信すると、デフリンピックを広くみんなが知ることができます。

③寄付をしよう！

個人、法人を問わず広く皆様からのご支援をお願いしています。寄付で集まったお金は、大会の準備・運営のために広く使われます。 <http://www.jfd.or.jp/about/shienkifu>

④デフスポーツサポーターに入ろう！

デフアスリートへの支援や競技環境の向上を通して、きこえない選手や子どもたちの可能性を広げ、デフスポーツの発展を目指しています。個人 1 口 3,000 円です。 <http://www.jfd.or.jp/sc/supporter>



日本選手団本部のお仕事



選手たちがデフリンピックという大舞台で輝けるよう、選手団本部は連日、手厚いサポートで彼らを支えています。

第24回夏季デフリンピックでは、54名のスタッフがそれぞれの専門的な知識や技術を活かして選手たちを裏からサポートしました。



団長

選手団はさまざまな競技団体から選ばれた選手やスタッフです。この200人近くの選手やスタッフが最大のパフォーマンスができるよう、また日本の代表として誇りを持ち、心が一つになるようまとめていきます。

総務

選手たちが選手村へ入村する前から何度も現地視察を行い、準備を整えます。大会が始まってからは、競技結果や選手たちの活躍を日本に向けて発信します。また、選手たちが快適な競技生活を送れるよう、サポートを行います。

医師・トレーナー

朝早くから遅くまで選手たちのメディカル面をチェックし、選手たちの体調管理を行います。選手にケガがあれば、競技会場に駆けつけたり、ドーピング検査を受けるときは付き添うなど、24時間気苦労が絶えません。

手話言語通訳 ・ 現地語通訳

医師やトレーナーと選手とのコミュニケーションを手話言語通訳で支援します。また、現地のボランティアや関係機関との話し合いや資料を確認する際、日本語に通訳する人も必要です。

輸送サポート

選手団の出国、選手村入りから、毎日の競技会場移動、選手村へ運び込む競技用品や物品などの管理や輸送を支えます。



東京2025デフリンピック応援手話言語メッセージリレー

デフリンピック気運醸成埼玉プロジェクトでは、埼玉県民をはじめ、市町村民へのデフリンピックの周知、手話言語およびきこえない・聞こえにくい人への理解の促進を行うため、埼玉県各首長に「手話言語での応援メッセージリレー」をお願いしました。

9月30日（月）から埼玉県市長会会長の朝霞市長の手話言語メッセージをスタートし、11月14日（木）埼玉県民の日に合わせて埼玉県知事の手話言語メッセージを公開しました。

埼玉県内すべての首長から手話言語メッセージを頂いたこと、市町村聴覚障害者協会が手話を指導するとともに首長との面談を設ける機会になった、市町村ホームページ全てにデフリンピック情報や記事が掲載が掲載された、市町村職員がデフリンピックを知るきっかけになったなど、たくさんの効果が出ました。

(デフリンピック気運醸成埼玉プロジェクト)



埼玉県聴覚障害者協会ホームページの「東京2025デフリンピック応援手話言語メッセージリレー」



リラククススポーツを楽しもう!

埼玉県膠原病友の会

副会長

いしがき 石垣 美枝子
みえこ

「筋力落ちたなー」「脂肪は減

らないのよね」難病のお薬が手

離せない私達は、年齢だけが原

因ではない衰えを常にかけてい

ます。でも、病気のため筋力も

体力も落ちてしまったので、ジ

ムやスポーツクラブでは付いて

いく自信がありません。どうし

たら良いものかと思っていたと

ころ、今回、センターのスポー

つすら汗をかきました。この足
踏み運動も、腕の振りを合わせ
ると頭も使うのですね。



次は、タオルを使ったストレ
ッチです。体調に合わせて、タ
オルの握り幅を替えられるのが有
難く、体を伸ばしたただけで腕に
心地よい刺激を感じました。腕
を伸ばしたまま、右、左、斜め
下に体をひねります。次に足で

す。普段、家で足を上げること
はありませんが、タオルを使え
ば無理なくできました。初めに
立った(座った)場所から少し
も動かずにこれだけ気持ち良い
時間が得られるのですから、こ
れならテレビを見ながらも続
けられそうです。体を動かす時
呼吸を合わせていくことが大切
ということでした。深い呼吸も
大切ですね。

後半は、生まれて初めてのポ
ッチャ体験のサプライズ!重い
ボールなのに、手から離れると
なかなか止まってくれず驚くこ
とばかりです。「試合をやって
みましょう」スタッフの皆さん
からルールを教わりながら、一
人ずつ白い球めがけて真剣にボ

ールを転がしました。しかし、
ボールは思い通りに動いてくれ
ず、「アレー」「ヤダー」の悲鳴
が入り混じりながらも、いつし
か皆さんの表情は笑顔に変わり、
決勝戦では声援や拍手も沸き上
がりました。



研修会、交流会で集まるのも
楽しいですが、こういった形で
ハンディを持った仲間が自然に
つながっていくのも素敵です。
この調子で、無理なく体を動か
して、通院の際の検査結果も良
くなってくればいいなと思っ
ています。

ポプリってこんなところだよ

埼玉県精神障害者団体連合会ポプリ 事務局長 市川 左千子 いちかわ さちこ



「今日は何人来てくれるのだろう。天気が悪いから参加者少ないかなあ」
 「今日は天気もいいし参加者多そうだね」



そう言いながら、司会者と会計の私は部屋へ向かいます。この会話は月2回のおしゃべり会の時に、2人の間でいつも交わされています。**おしゃべり会**とは、私たち精神障害者たちが集まって、参加者からでたテーマを順番にテーマにそって話をしていくといったものです。

話の始まりは自己紹介から「ニックネーム」「どこからきたか」「今日の気分を点数で」「最近の出来事」「今日話したいこと」と進めていきます。ニックネーム以外は話したくなければ、話さなくても大丈夫。

おしゃべり会ではポプリから参加者に交通費を支払います。往復で3000円までお支払いしています。話を進めるにあたってのルールもあって「みんなが平等・対等」「非難・批判・意見はしない」などです。話のテーマは、その日参加者から自己紹介で出されたものから優先的に話に出していきます。その日に出されたものがなければ、いつもたくさんテーマを出して用紙に書いて持ってきてくれる方がいるので、そのテーマで進

めていきます。また、人数によってはテーマを深ぼりしておしゃべり会を進めていくこともあります。ちよつとしたお菓子や飲み物も用意しています。参加者はそれを食べながら時間を過ぎています。

ポプリの活動はおしゃべり会だけではありません。

まずは電話相談の「ポプリおしゃべり電話」

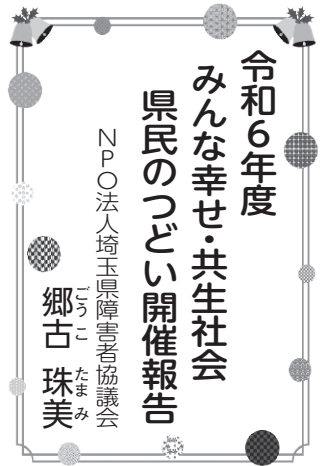


これは以前「ポプリ電話相談」と言っていました。が、それでは相談しきれない事となり、ただおしゃべりだけをした方が電話をしにくくなってしまいうという事で、今は「相談」を「おしゃべり」に変えました。

ポプリまつり

ポプリが主催で、当事者に主に参加していただくイベント。内容はその年によって変わります。昨年度は、ポプリ役員のリカバリーストーリーとミニおしゃべり会でした。参加者は役員を含め19人でした。

その他には、支援していただいている大学の教授を講師にお迎えしての**勉強会**。今年度のテーマは「リカバリーストーリー、話してみよう・聞いてみよう・観察してみよう」でした。内容は話す人、それを聞く人、そしてその二人をみる人、それぞれがそれぞれに感想を発表し合う。この内容はこれからのポプリの活動に活用できそうです。私たちの活動は全てピアカウンセリング事業としておこなっています。



令和6年度年度障害者週間記念事業「みんな幸せ・共生社会県民のつどい」が12月1日(日)、吉見町の「吉見町民会館フレサよしみ」にて開催されました。

この事業は、障害者に対する県民の理解を深め、共生の心を育む地域づくりを推進することを目的として毎年開催されています。

式典では令和6年度「心の輪を広げる体験作文」入賞者・「障害者週間記念ポスター」の入賞者への賞状授与の他、式典後にはデフバトミントンナショナルチームと、よしもと手話ブによる講演会「手話を知ろう！東京2025デフリンピックに向けて」が開催されたほか、吉見町近隣の特別支援学校や中学

校の生徒たちによる吹奏楽やよさこい演舞・太鼓演奏があり、学校紹介・合奏等の動画も上映されました。



また、会場ホールの前では特別支援学校生徒が作った焼き菓子等の販売や障害者週間ポスター受賞作品の展示があり、別会場には特別支援学校・特別支援学級作品の絵画や工作作品の展示、公募された障害者絵画展などもあり、工夫を凝らされた作品群は来場された方の目を楽しませていました。



<賛助会員募集のコーナー>

私たちは、埼玉県障害者協議会の活動を応援しています



株式会社 大塚商会
東京本社 〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4
札幌・仙台・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・福岡

晃新印刷

〒336-0931 埼玉県さいたま市緑区原山2-23-25
電話 048-887-8006 FAX 048-887-3444

<賛助会員加入のお願い>

埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。賛助会員には年8回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。賛助会員の会費は、年一口2,000円です。入会をご希望の方は、下記の口座へお振り込み下さい。

<郵便振替> 【口座番号】00130-9-673233
【口座名称】特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会

編集後記

▼夏から一足飛びに冬になり、今年もあと僅か。振りかえると元旦の能登大地震があり、絶えず列島のどこかが被災し、お騒がせな災害大国ニッポンです。
▼一つしかない地球の温暖化は様々な災害をもたらすも、分断が立ちはだかっています。
▼分断はウクライナ、パレスチナの戦火だけでなく、さらに拡大の危機にあり、核抑止の屁理屈勢力が存在します。
▼その克服へ被団協がノーベル平和賞に推され、分断にストップを訴えました。
▼障害者運動が求める共生は、分断の克服であり、平和への道だと痛感しました。 (國松)